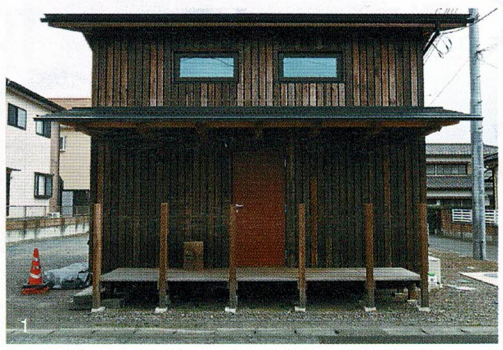
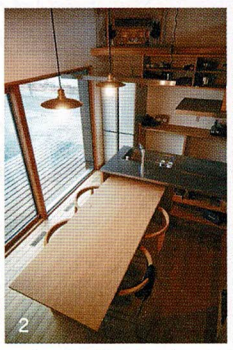
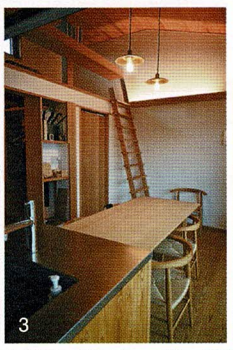
#大工×高性能住宅
#地域貢献

手刻みでつくる高性能住宅をブランド化
事務所兼モデルハウスを地域に開放、“コミュニティ大工”としても活動

剛工務店［群馬県伊勢崎市］

手刻みにこだわりながら20年以上、個人事業主として活動してきた大工の生形剛さんは今年1月、剛工務店を法人化した。伝統的な大工の技術を生かしてつくる、断熱等級6超・耐震等級3などを標準仕様とする高性能住宅をブランド化していこうという決意の表れだ。同時に生形さんは、事務所兼モデルハウスをシェアスペースとして地域に開放し、そこでDIYをしたい人たちのサポートも行うなどして、“コミュニティ大工”としての活動領域も広げていきたい考えだ。

剛工務店代表の生形剛さん

1.断熱等級7・耐震等級3の性能を備える事務所兼モデルハウス。ウルトの防水シートの上に八溝杉の板材をファサードラタンで張った
2.キッチンを備える事務所兼モデルハウスは、シェアスペースとして地域の人たちに貸し出す
3.無垢スギ板の床や天井、漆喰塗りの壁など自然素材の心地よさが伝わる空間にした。生形さんが造作したクリ材の天板のダイニングテーブルやJパネルのキッチンなど、大工の技が随所に散りばめられている
4.手刻みで加工した木材を組み上げて製作したロフトへ上がるための階段。「意外と女性から可愛らしいと評判です」と生形さん
5.ウッドデッキのある南面の大開口はトリプルガラスの高性能木製サッシ「キュレイショナー」を採用。日射取得により真冬も「ほぼ無暖房でいける」ことが確認できたという

生形さんは昨年、事業再構築補助金を活用し、伊勢崎市内に自社の事務所やシェアスペースなど複合的な用途で利用できるモデルハウスを整備した。延べ床面積はロフト（3坪）を含めて約10.5坪。性能面は、断熱等級7のUA値0.24W/㎡K（6地域）で、C値は0.3㎠/㎡、構造は許容応力度計算による耐震等級3。生形さんは「UA値0.3、C値0.3を上回る断熱・気密性能、耐震等級3を約束する家づくりの仕様を分かりやすく示せるモデルを目指した」と説明する。

「ほぼ無暖房」を実証

壁の断熱は、柱間にグラスウール（16K）を105㎜厚で充填し、ネオマフォーム60㎜厚により付加断熱した。屋根の断熱は、登り梁間に180㎜厚のグラスウール（16K）を充填、その上に合板を張り、垂木間にも同じ厚さでグラスウール（同）を充填し、あわせて360㎜厚の断熱を施した。基礎の断熱は、立ち上がりの内側と、折り返し（スカート）700㎜幅にネオマフォーム80㎜厚を施工したうえで、土間全面に同40㎜厚を敷き込んだ。窓には全てキュレイショナー（山崎屋木工製作所）のトリプルガラスの木製サッシを採用し、玄関ドアにも同ブランドの高断熱木製ドアを用いた。

冷暖房は、ロフトに設置した6畳用のエアコン1台のみで行う。生形さんは、ひと冬を越えてみて「建物が小さいことや南に大開口を設けたパッシブデザインということもあり、暖房については十分な日射取得により、ほぼ無暖房でいけることが分かった」とする。換気設備については第一種熱交換換気システム・ヴェントサンを導入した。

大工の技を魅せる空間に

同建物の構造材や外装・内装材には、近隣に産地（栃木県）があり、良材として知られる「八溝杉」を主に用いた。構造材については、生形さんが墨付けし、手刻みによって加工。外壁は防水シート（ウルト）の上にスギ板材をファサードラタンで張った。内装は床にスギ板材を張り、壁は漆喰で仕上げた。キッチンをJパネルで造作したほか、クリ材の天板を用いたダイニングテーブルや階段なども生形さんが大工の技術をフルに生かしてつくった。建物の見学者・利用者に、木材をはじめとする自然素材や大工の技の魅力を伝える空間となっている。

ブレずに正しいものをつくる

生形さんは野球に打ち込んだ高校時代、群馬県代表として春の選抜・甲子園大会に出場し、レギュラーとしてベスト8まで進出した経験を持つ。卒業後は、「ひとつの道を究める」というアスリート気質のまま大工の道に飛び込み、ひたすら技術を磨いた。技能五輪（建築大工）や技能グランプリ（同）に出場し、いずれも全国2位という好成績を収めた。その後は、群馬県から「ものづくりマイスター」として認定され、県の要請を受け、約10年にわたり後進（若手大工）の指導にも精力的に取り組んだ。

そんな生形さんは、モデルハウスを拠点に発信していく、手刻みでつくる超高性能住宅のブランドを「規矩準縄（きくじゅんじょう）の家」と名付けた。「規矩準縄は技能五輪や技能グランプリに挑戦していた時に、県の名工にも選ばれた大工の指導者の方たちから教わった言葉で、建物を正確に建てるための道具、または物事や行動の規範となるものを意味します。ブランド名には心技体のそろった大工として、人間として、ブレずに『正しいものをつくっていこう』という思いを込めました」と語る。

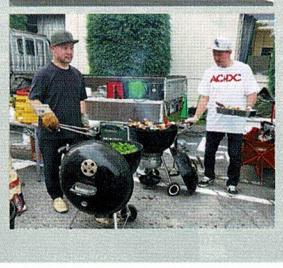
共に学ぶ「木標」立ち上げ

生形さんは今後、価値観を共有できる顧客に規矩準縄の家を届けながら、「良質な木の家づくり」に取り組む県内の工務店と協働して「共にレベルアップを目指したい」考えだ。そのために、このほど志を同じくする高崎市のほしかわ工務店の干川彰仁さんらと県内の工務店や設計事務所、住宅業界関係者らを対象とする学びのコミュニティ「木標（もくしるべ）」を立ち上げた。木標には「木の案内人」という意味が込められている。生形さんは「まずは群馬の木のことを知ることから始めようという『木のことを知るべえ』の群馬弁もシャレでかけてみました」と笑う。堅苦しくならず、楽しみながら、「“まっとうな木造建築”の普及に取り組む大阪のMOKスクールのような活動を展開できたら」（生形さん）と今後の方針を語る。

DIYやバーベキューも楽しめる地域の交流拠点に 脱炭素や防災の普及啓発も

事務所兼モデルハウスはシェアスペースとして有料で貸し出し、地域の人たちにさまざまな用途で活用してほしいと期待する。また、太陽光発電と蓄電池を完備するこの施設は、災害時にも自立的に電力を賄うことができるため、有事の際の“地域の避難所”にも位置付ける。東日本大震災の被災地でボランティアに取り組んだ経験がある生形さんは、利用者らに対して脱炭素や防災の普及啓発も行っていく。

隣にある自社の広い加工場も一体的に利用しながら、DIYをしたい人たちへの支援や技術指導なども行っていくほか、バーベキューを楽しむ場所としても開放するという。実は生形さんは、日本バーベキュー協会が認定するバーベキューインストラクターの資格を持ち、週末に仲間と一緒に県内外に出張して、バーベキューを楽しみたい人たちをサポートするといった活動もしている。「かたまり肉を数日間、スパイスに漬け込んで、それをじっくり焼いて提供することもあります。本格的なバーベキューグリルも4台持っているので、ここでも有効活用したいですね」と笑顔で話す。



上：事務所兼モデルの奥には同社の広い加工場があり、敷地一体を活用してバーベキューやDIYをしたい人たちのサポートなどもしていく予定という
下：バーベキューインストラクターの資格を持つ生形さんは、仲間と一緒にバーベキューを楽しみたい人たちのサポートを行っている